

令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録

日時 5月9日(木) 14:00~15:00

場所 水沢高校 大会議室

1 開会

2 校長挨拶

本運営協議会は3年前までは学校評議員会であった。学校評議員は5名で構成され個人として意見を述べることを任務としていた。本協議会は委員15名以内で組織され、学校経営の基本的な方針についてや諸課題について協議し、学校を応援する存在としてその運営改善に資するような建設的なご意見を頂戴して学校運営に参画していただくものである。今年度はさまざまな立場の方からご意見を頂くよう委員の構成を見直した。

本日は学校経営計画、スクールポリシーについて承認いただく他に、水高の現在の状況を知っていただきご意見を頂戴したい。協議会の規則については資料に記載のとおり。

3 自己紹介

資料の通り(平英一様 欠席)

4 学校概況説明

【目黒進路主事】大学進学状況について

国立大学88名、公立大学44名、のべでは132名の合格となった。実合格者数は128名であった。浪人生は4名(報告があった数)が国公立大学に合格している。かなり健闘した数となっている。浪人するよりは国公立短大を受験する生徒がいる。その後、編入で四年制大学を目指す生徒が多い。医療系を考えている生徒もそれなりに多い。私大に関しては資料のとおり。以前と比べて私大の志望者は減った。国公立大学と併願して東京近辺の私大を受ける生徒は減少傾向。最終的には国公立大学に進学したのは123名。第一希望大学に近づくために浪人を選んだ生徒もいる。難関大学は厳しい状況になっている。東北大学は関東からの受験が増え、東北は苦戦している。東大は2名受験したが不合格であった。

推薦については、51名が推薦や総合型の合格者であった。推薦の合格率は4割程度である。国公立大を受験する生徒の半数近くは推薦を利用する時代となった。

【今井生徒指導主事】部活動結果について

令和5年度は資料のとおり数多くの部活動で優秀な成績をおさめた。部活動ではない個人での活動に対しても同じ規定により旅費等を補助している。

【松澤教務主任】DXハイスクールについて

デジタル理数分野を支える人材育成のために、約1000校に1000万円を配分するものである。県内では21校選出され、本校も選出された。今年度から環境整備、出前授業等に使っていく予定。

【質問】

【委員】かつては大都市圏への進学を併願していたが、それが今は少ないとのこと。その理由として経済的なものなのか、コロナの影響なのか、それとも近くでも十分整った教育環境があるためなのか、教えてほしい。

【目黒進路指導主事】

コロナの影響はたしかにありました。国公立大と私大の両方を考えている生徒が東京へ行くことは3年前くらいから少なくなった。この地区から進学すると親元を離れることになる。その際に仙台までの希望が多くなった。第一には国公立大という希望が強くなった。お金の問題もあるかもしれないが、理系の場合は国公立大のほうが環境が整ってる。名前だけではなく、内容で選んでいる生徒も多い。

5 協議（会長が協議の議長となる規則により会長が進行）

ア・イ 学校経営計画・スクールポリシーについて

【校長】なるべくわかりやすくシンプルに、ある程度焦点を絞って作成している。教育目標はその通り。校訓がない学校でかわりに生徒会モットー「友愛 清新 気魄」があり、これを58年間守り続けてきた。このモットーの元で教育目標を作成した。スクールポリシーについては昨年よりデザインを変更した。アドミッションポリシーは中学生向けに、このような生徒の入学を期待しますということ。カリキュラムポリシーはこのような授業をしますということ。グレンジーションポリシーは高校卒業後、このような人間になってほしいということ。昨年度のもの大きな変更はない。魅力化協働パートナーについてはメンバーが変わったので変更した。目指す学校像に今年度の重点目標が5つある。エはいじめ対策組織の活性化について、オは新規に不適切な指導の防止について作成した。達成目標は学校評価アンケートを割り当てた。達成目標は確実に達成するという観点で80パーセントになっている。取組方針はより具体的に記載した。

ウ 働き方改革アクションプランについて

【副校長】毎年作成して学校HPで公表している。水高版ウエルビーイングの実現に向けてとした。身体的にも、精神的にも、職場的にも、家庭的にも幸せである状態が持続するという意味です。超過勤務は80時間までとなった。教員はまじめで一生懸命生徒のために働きたいと思っている。今はそれだけではなく、80時間という基準を守り教育の質を落とすことなくやっていきたい。一つのカギはICT化である。職場の意識改革と管理職の声掛けで目標を達成したい。

【質疑】

【委員】魅力化協働パートナーは運営協議会とイコールのものなのか？ 何か別に活動するのか？

【校長】同じ位置づけである。個別に活動することはないが、お互い協力してやっていく。

【委員】昨年のいじめ件数は？ 重大さはどうだったのか？

【校長】毎年いじめ対策検討委員会を年4回行っている。昨年度の認知件数は0件であった。

【委員】働き方改革は時代の流れと思う。月80時間の勤務、定時退庁週2回をどのように推進してきたか。具体的に何かありますか？

【校長】今年80時間以下にする目標となっているが、大会に引率すると残業時間が相当増える。推薦等が増え個別指導が入ると増えてしまう。学校にいる時間を減らしていくために、行事で遅くなった時は別の日に早く帰ってよいことにしたり、振替休日を取らせている。声掛けをしてなんとかやっている。

【委員】職員それぞれが自覚して目標の達成をめざしてほしい。

【委員】いじめについて 水高のいじめの定義は何か？

【校長】文科省の定義のとおりとしている。

【委員】外傷は確認しやすいが、スマホに関するものでもいじめになるのではないかと親としても確認がしにくい部分がある。客観的に判断できるものも必要かと思う。

【校長】記名式のアンケートをとっている。そのアンケートで記述があればすぐに確認している。現在のものなのか等を確認して動き、その後、会議で認定するかどうか検討する。スマホが関連することが多い。本人の了解が得られればスマホを見て確認もしている。

【委員】親としてもしっかり把握していかなければならない問題である。

【委員】学校裏アカウントはあるか？

【校長】本校では確認できていない。スマホの使い方については安全教室を開いて指導している。場合によっては加害者になることもあるので警察から指導をいただいている。

【委員】自転車のヘルメットについてはどうなっているか？通学時のヘルメット指導は難しいと聞いているが。

【校長】本校の校則は生徒と一体化して決めている。努力義務化となっているヘルメット着用については、今生徒会に投げかけて動き始めているところ。ヘルメット着用のお願いの文書は出したが、学校として義務にはしていない。

【委員】働き方改革は中学校も難しい。残る先生は固定されている。管理職としてどうしていくか難しいところである。負担を減らしても残る人は変わらないこともある。

地元にある進学校に進学したい意思が明確な生徒が入学している。大きく育ててほしい。

【校長】中学校から不登校の生徒がいて大変だときいているが、今年の1年生は欠席がほとんどない。授業は明るく受けている。応援歌練習の欠席もなかった。目的をもった生徒が入学しているようだ。

【委員】不登校について、保護者と学校との連携がよくなっている。保護者も安心して相談できる体制ができてきている。学力や学校のシステムに対する不応適が不登校の原因になることもある。保護者もスクールカウンセラーに相談できることになっているので継続してほしい。

【校長】本校の場合スクールカウンセラーは県派遣が1名、学校独自で2名にお願いし充実している。

【委員】インターネットを介した情報の拡散のトラブルがある。相談があったら警察に届けてほしい。男女間トラブルから重大事件に急展開することがある。些細なことから警察に情報提供してほ

しい。

【委員】 サービス残業などの事例はあるか？

【校長】 時間を超過すると校長面談や保健指導がある。健康を害したら意味がないが、先生方は何があるとすぐ動いてくれる。その分、仕事が後回しになる。人がもう少し増えたら助かる。

6 その他

第2回、第3回の日程と内容の確認

配布資料の確認

以上